



2024年3月期第2四半期

決算説明会資料

2023年11月15日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

会社名
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス
(IPS, Inc.)

設立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容・
主な連結
子会社

国際通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供
フィリピン国内での法人向けISPの提供、フィリピン国内通信回線敷設

ISMO Pte. Ltd.
InfiniVAN, Inc.
Carrier Domain, Inc.
KEYSQUARE INC.

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

株式会社アイ・ピー・エス・プロ

メディカル&ヘルスケア事業：フィリピンでのレーシック・美容サービス・予防医療の提供

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC)
Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC)



企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、日本およびフィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



1 | Executive Summary

2 | 2024年3月期第2四半期 連結決算概況

3 | 2024年3月期通期 業績予想

4 | 今後の事業戦略

報告セグメントについては、前期まで「国際通信事業」、「フィリピン通信事業」、「国内通信事業」、「メディカル&ヘルスケア事業」、「その他」の5セグメントとしておりました。

2024年3月期より、フィリピン国内海底ケーブル完成によるフィリピンにおける通信事業の業容の拡大を踏まえ、国際通信事業とフィリピン通信事業との連携がこれまで以上に高まることを見込まれることから、国際通信事業に統合いたします。併せて、「その他」としている事業の進捗管理も国際通信事業およびフィリピン通信事業を統括している通信事業本部にて実施していることから、国際通信事業に統合いたします。

これに伴い、前年同期のセグメントの数値も新セグメントに組み替えて表示しております。

(旧セグメント)	(新セグメント)	連結子会社
国際通信事業	国際通信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ InfiniVAN, Inc. ・ ISMO Pte. Ltd. ・ KEYSQUARE INC. ・ CarrierDomain Inc.
フィリピン通信事業		
その他		
国内通信事業	国内通信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社アイ・ピー・エス・プロ
メディカル&ヘルスケア事業	メディカル&ヘルスケア事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation (SLACC) ・ Shinagawa Healthcare Solutions Corporation (SHSC)

1. Executive Summary



2024年3月期第2四半期 連結決算概要

売上高：5,248百万円 営業利益：925百万円 売上高営業利益率：17.6%
(前年同期比9.3%減) (前年同期比43.5%減) (前年同期は28.3%)

2024年3月期第2四半期の事業推移

1. 国際通信事業は、国際通信回線C2Cなどの提供が進んだものの、前年同期にはIRU契約の大型案件での入金による収益計上があり、減収減益となる。
営業員の増強などにより体制を強化している法人向けインターネット接続サービス（Enterprise）の契約件数が着実に増加。フィリピン国内海底ケーブル（PDSCN）の建設とともに、フィリピン国内通信網の整備中。
2. 国内通信事業は、前期までのコロナウイルス感染症関連のコールセンター向けサービスが減少する一方、電話網のIP化（PSTNマイグレーション）に対応した通信機器の構築、システム開発およびサービス提供などにより前年同期と同水準の収益。
3. メディカル&ヘルスケア事業は、レーシック件数が前年同期に比べ減少となり、予防医療への新規進出による先行投資により、減収減益となった。

ビジネス

1. 建設が最終段階にあるPDSCNを中心に、国内通信回線網の整備中。
2. メディカル&ヘルスケア事業では、人間ドック/健診センターを立ち上げ中。

2 | 2024年3月期第2四半期 連結決算概要

(1) 決算ハイライト



【2024年3月第2四半期 連結決算実績】

(単位：百万円)

	第2四半期				第2四半期累計			
	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	%	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	%
売上高	2,960	2,768	▲ 192	▲6.5%	5,783	5,248	▲ 535	▲9.3%
営業利益	808	511	▲ 297	▲36.7%	1,636	925	▲ 711	▲43.5%
経常利益	913	513	▲ 399	▲43.7%	2,372	1,558	▲ 813	▲34.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	632	314	▲ 318	▲50.3%	1,660	954	▲ 705	▲42.5%

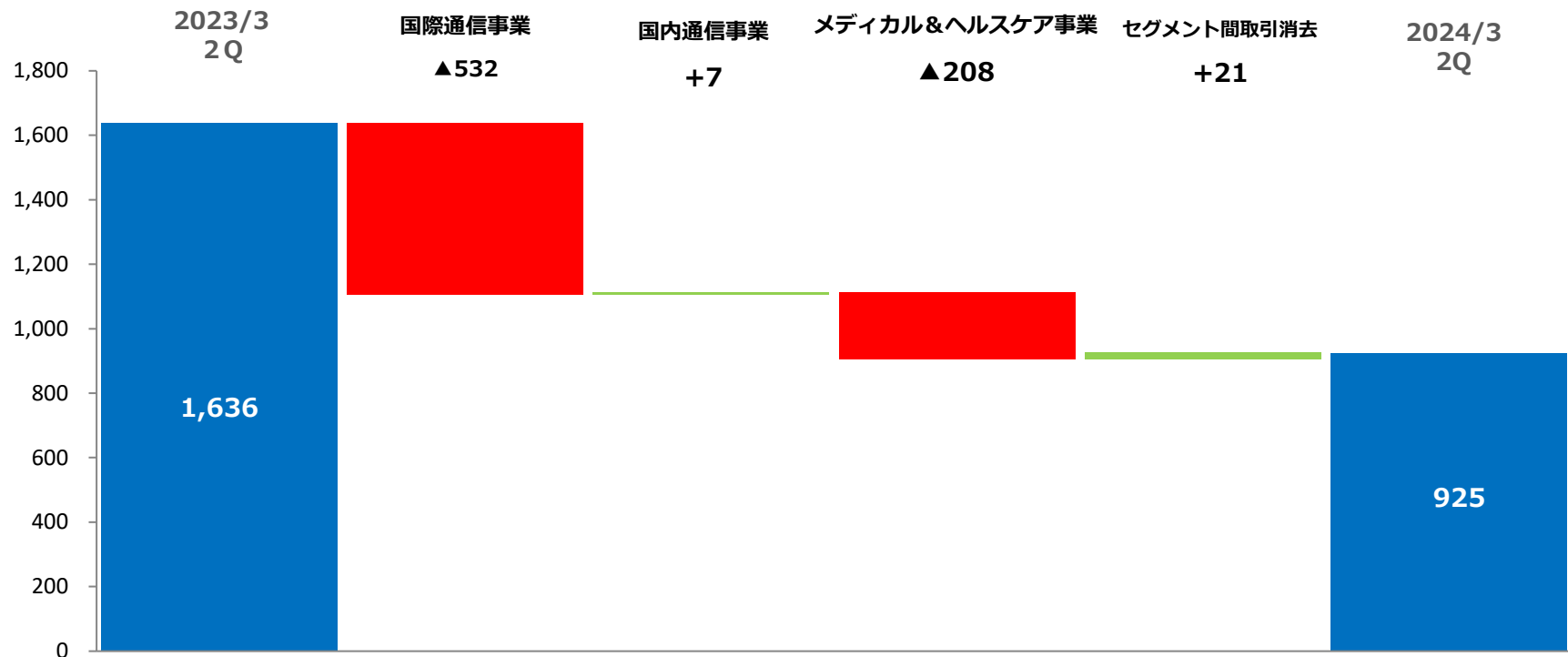
2024年3月期第2四半期 実績分析

- **売上高**：国際通信事業において前年同期に大口のIRU案件の入金による収益計上があった一方、上期は大口の計上は無し。また、メディカル&ヘルスケア事業において、レーシック件数が一部競争の激化の影響を受け、前年同期比減少となった。その結果、前年同期比9.3%の減少。
- **営業利益**：国際通信事業、メディカル&ヘルスケア事業が減収となったことにより、前年同期比43.5%の減少。
- **経常利益**：2023年9月末のドル円相場が149.58円と円安になったことによる為替差益687百万円を計上（前年同期は740百万円の為替差益を計上）したものの、営業利益が減益となったことから、前年同期比34.3%の減少。
- **親会社株主に帰属する当期純利益**：営業利益が減益となったことにより前年同期比42.5%の減少。

(2) 営業利益増減（前年同期比）



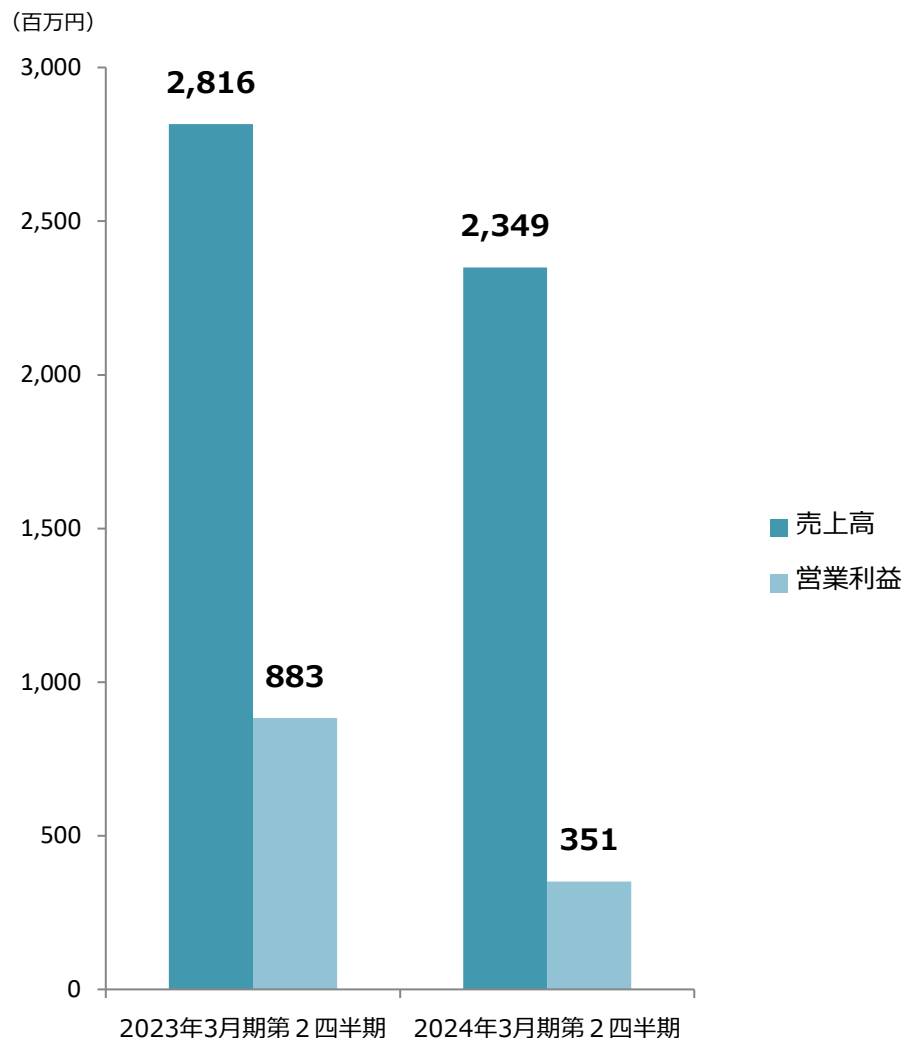
国際通信事業が前期にはIRU契約の大口案件の計上があり、減益。
メディカル&ヘルスケア事業においても、レーシック件数が減少となり、
新規事業の立ち上げに伴う減価償却費の増加などにより減益。



(3) 事業セグメント別経営成績

(単位：百万円)

		2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比	増減率
国際通信事業	売上高	2,816	2,349	▲ 466	▲ 16.6%
	営業利益	883	351	▲ 532	▲ 60.2%
国内通信事業	売上高	2,117	2,093	▲ 23	▲ 1.1%
	営業利益	431	438	7	0.0
メディカル & ヘルスケア事業	売上高	849	804	▲ 44	▲ 5.3%
	営業利益	340	132	▲ 208	▲ 61.2%
セグメント間取引消去	営業利益	▲ 17	3	21	—
合計	売上高	5,783	5,248	▲ 535	▲ 9.3%
	営業利益	1,636	925	▲ 711	▲ 43.5%

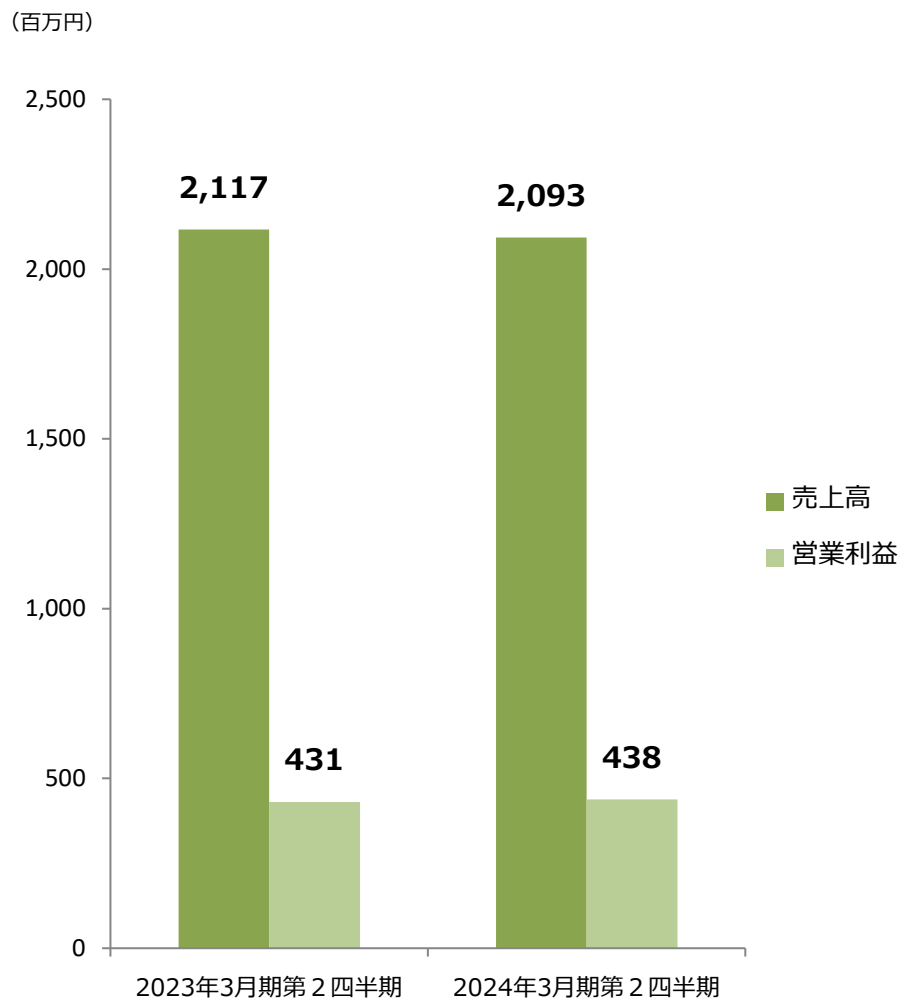


事業拡大のための先行投資

フィリピンのCATV事業者／通信事業者に国際通信回線を積極的に拡販、法人向けインターネット接続サービスの顧客数の増加により、ストック型ビジネスの拡大を図る。PDSCNの建設により、国内通信網整備を推進。

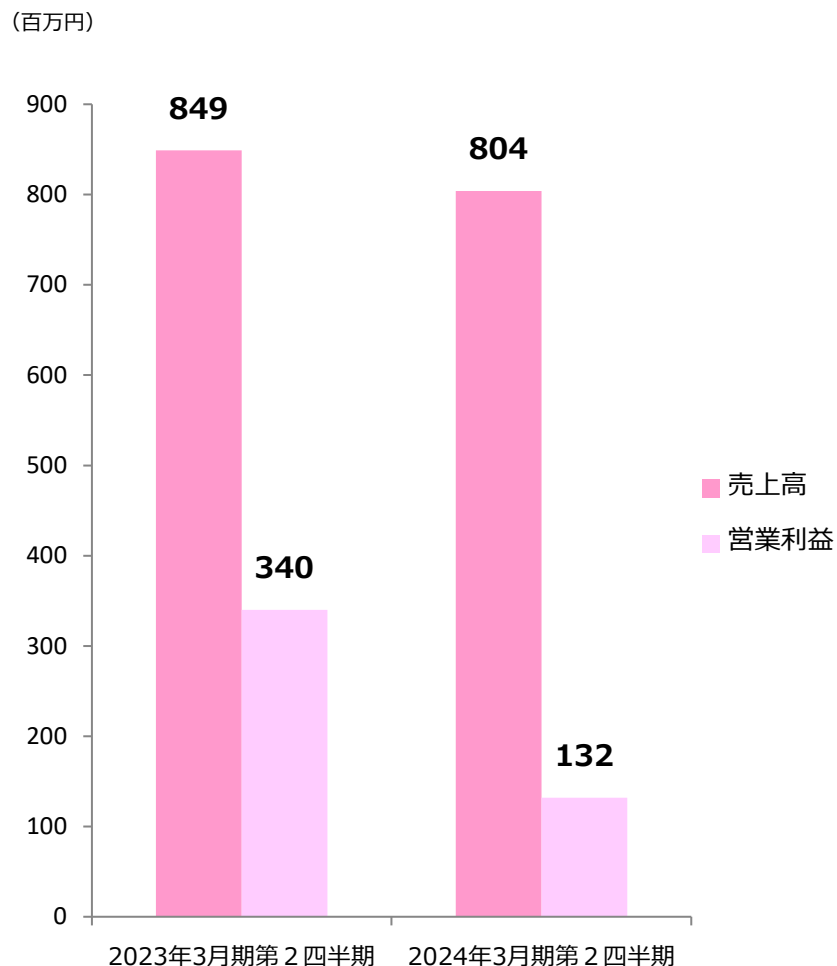
今期は、C2C回線の提供拡大のほか、法人向けインターネット契約数が増加したものの、前年同期にIRU契約の大型案件の入金があり収益計上があったため、通信機器などの販売により年初計画を上回ったものの、減収減益。

フィリピン国内通信網を整備し、さらなる事業拡大を図ってまいります。



コールセンターソリューション等が好調

コールセンターシステムAmeyoJと秒課金サービスを合わせたコールセンター事業者向けサービスの新規拡大や電話網のIP化（PSTNマイグレーション）に対応した通信機器の構築、システム開発およびサービスの提供を行い、前年同期に計上されていたコロナウイルス感染症関係のコールセンター向け収益の減少をカバーし、前年同期と同水準の収益を計上。



レーシック手術件数が前年同期比減少となり、減収減益

Shinagawa Lasik & Aesthetic Center Corporation (SLACC) が提供しているレーシックにおいては、顧客獲得競争などの影響により前年同期比減少となったことや、フィリピンの物価上昇の影響を受けたことから、減収減益になりました。

予防医療分野への進出

予防医療分野への進出するため、日本の高品質な技術を導入した人間ドック・健診センター-Shinagawa Diagnostic & Preventive Careを開院。

(4) 財務状態

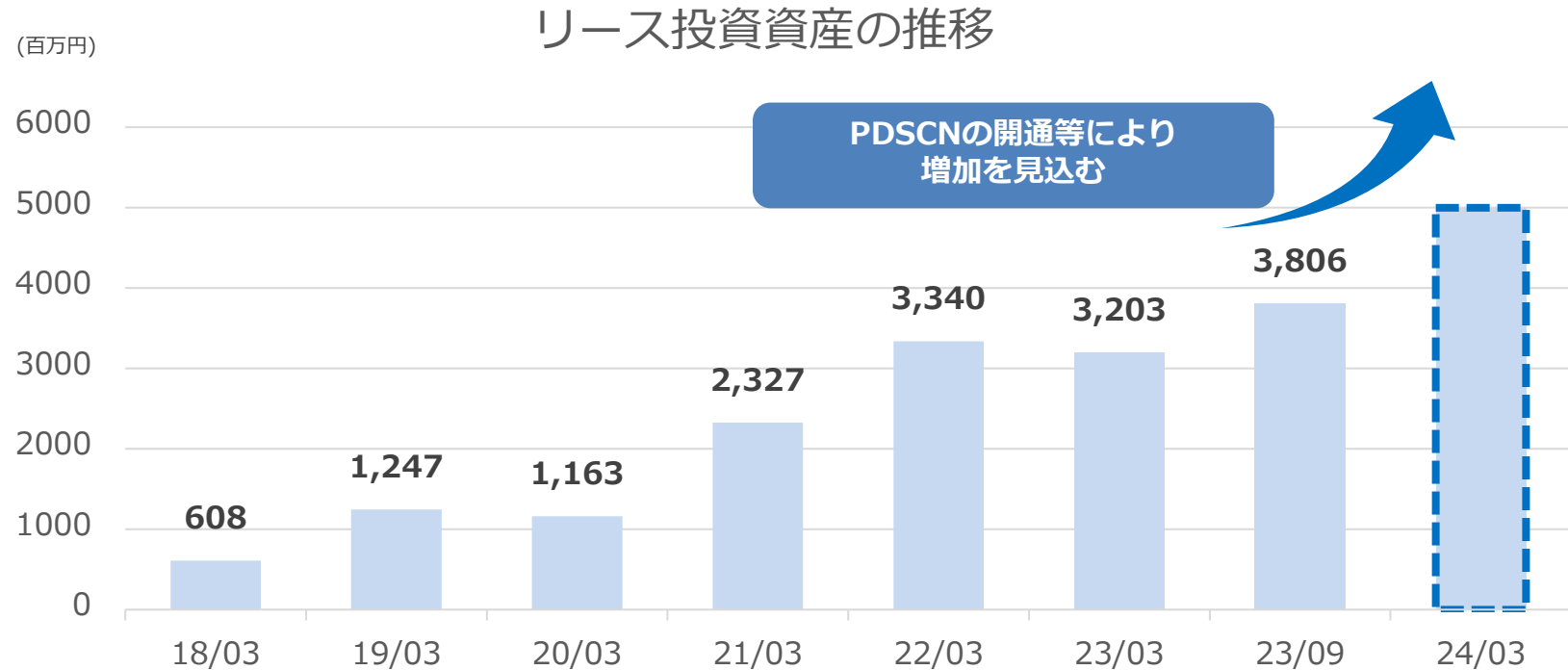


連結貸借対照表 (サマリー)

(単位：百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
	2023年3月期末	2024年3月期 2 Q	増減		2023年3月期末	2024年3月期 2 Q	増減
流動資産	14,270	15,183	912	流動負債	12,250	12,410	160
現金及び預金	6,881	5,759	▲ 1,121	買掛金	1,781	1,514	▲ 266
売掛金	2,631	3,235	604	借入金	6,170	6,531	361
リース投資資産	3,203	3,806	603	その他	4,299	4,364	65
その他	1,553	2,381	827	固定負債	1,014	3,703	2,689
				長期借入金	760	3,428	2,667
				その他	253	275	21
固定資産	10,839	14,176	3,336	負債合計	13,265	16,114	2,849
有形固定資産	8,171	11,514	3,342	純資産	11,864	13,289	1,425
無形固定資産	1,760	1,792	32	株主資本	8,905	9,656	751
投資その他資産	907	869	▲ 37	累積包括利益	449	826	376
繰延資産	19	44	25	新株予約権	263	266	2
				非支配株主持分	2,245	2,541	295
資産合計	25,129	29,404	4,275	負債・純資産合計	25,129	29,404	4,275

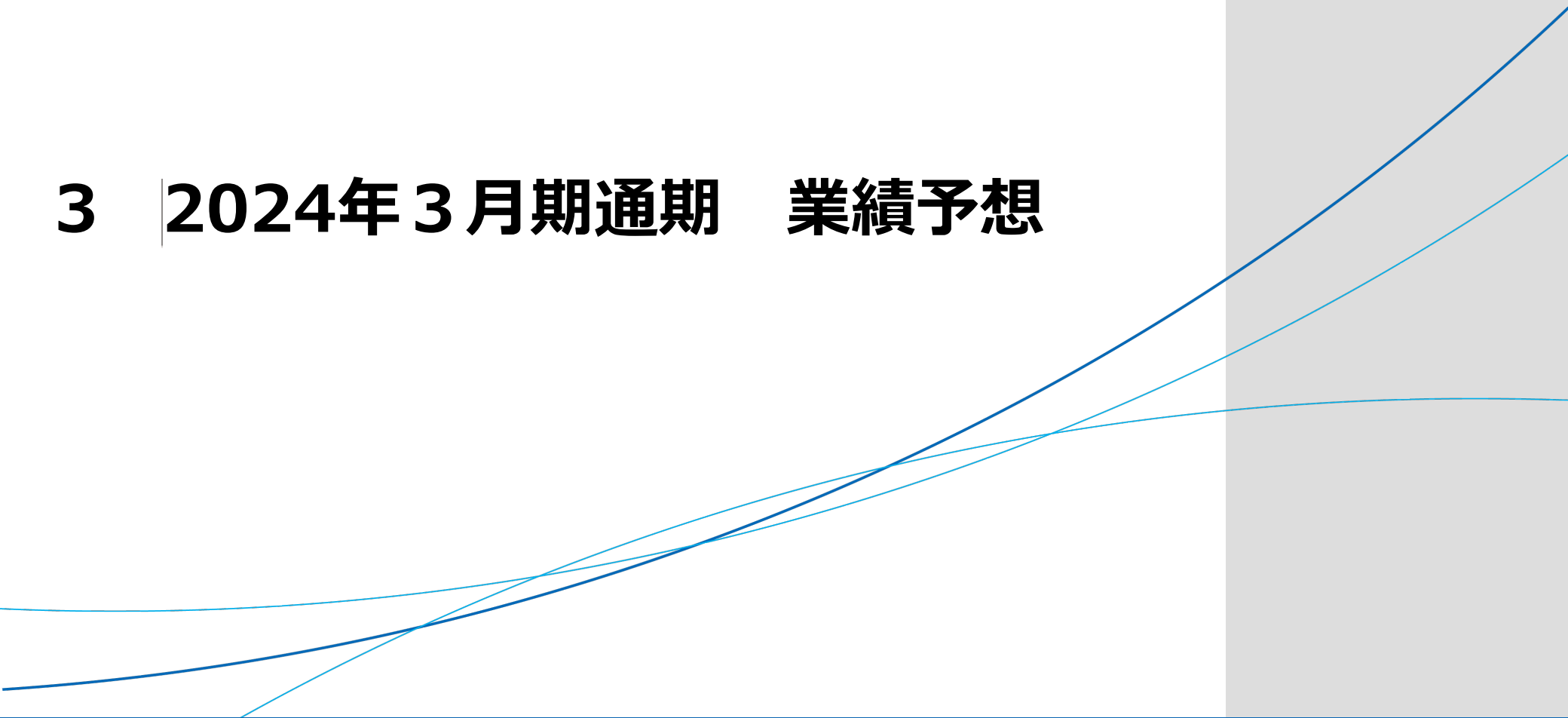
(5) リース投資資産の推移



- 通信回線を長期IRU契約で提供する場合、収益は現金基準で認識される。
- 契約済み入金前のIRU契約対価はリース投資資産として計上、3-5年の分割払いで順次収益に振り替わる。
- 残高増加は国際通信事業成長に伴うストック蓄積を示す。

※24年3月末のグラフの高さはおおよその予想値であり正確な数値を表すものではありません。

3 | 2024年3月期通期 業績予想



2024年3月期 業績予想について（連結）



（単位：百万円）

	2023年3月期 通期実績	2024年3月期			
		上期実績	下期計画	通期	前年実績比
売上高	12,346	5,248	8,752	14,000	13.4%
営業利益	3,311	925	2,875	3,800	14.8%
経常利益	3,464	1,558	1,992	3,550	2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,292	954	1,246	2,200	▲4.1%

通期予想について

国際通信事業は、フィリピン国内通信回線網の整備が進むことで、計画を上回る収益計上を見込んでおります。一方、メディカル&ヘルスケア事業については、レーシックにおいて一部競争の激化や物価の上昇などの影響を受けており、また、人間ドック・健診センターの収益計上が、当初の想定以上に遅れていることから、セグメント別には計画を見直しておりますが、全体としての通期業績予想値に変更はありません。

なお、為替が円安となり第2四半期において為替差益687百万円を計上しておりますが、為替の動向を予測することが困難なため、通期業績予想数値には反映させておりません。

2024年3月期 セグメント別業績予想の見直し



(単位：百万円)

セグメント		2023年3月期	2024年3月期予想		
			変更前	変更後	増減額
売上高		12,346	14,000	14,000	0
	国際通信事業	6,380	6,800	8,150	1,350
	国内通信事業	4,275	4,700	4,300	▲ 400
	メディカル&ヘルスケア事業	1,690	2,500	1,550	▲ 950
営業利益		3,311	3,800	3,800	0
	国際通信事業	1,865	2,200	2,760	560
	国内通信事業	919	1,050	920	▲ 130
	メディカル&ヘルスケア事業	536	550	120	▲ 430
	セグメント間取引消去	▲ 11	—	—	—
営業利益率		26.8%	27.1%	27.1%	—
	国際通信事業	29.2%	32.4%	33.9%	—
	国内通信事業	21.5%	22.3%	21.4%	—
	メディカル&ヘルスケア事業	31.8%	22.0%	7.7%	—

(注) 2023年3月期のセグメントの売上高・営業利益はセグメント変更に合わせ、組み替えております。

1. 国際通信事業におけるキャリアズキャリア取引の計上時期について

国際通信事業は、フィリピンの旺盛な通信需要を背景に強い引き合いがあり、順調に拡大。

PDSCNプロジェクトは、2023年12月中に完成予定。

大手通信事業者などに国際通信回線などを提供するキャリアズキャリア取引は、相手先の年間設備投資計画の執行（当社グループの収益計上）時期が、第3四半期／第4四半期になる傾向が強い。今期も、第3四半期／第4四半期に集中する。

2. メディカル&ヘルスケア事業の下期業績について

今期のメディカル&ヘルスケア事業は、レーシックが苦戦している。

その要因は、前期にコロナウイルス感染症関係の移動制限緩和によりレーシック件数が急激に増加した反動と、さらなる移動制限の解除によるレジャーなどの消費拡大に押された影響、と分析している。また、小規模なクリニックがSLACCと同様のデジタルマーケティングを展開するなど、新規競争が生じている。今後、マーケティング手法の見直しなど、的確な事業運営を図る。

人間ドック・健診センター関連のサービスについては、立ち上げたばかりであり、啓蒙活動から行う必要があり、収益の貢献は来々期となる見込み。

4 | 今後の事業戦略

(1) フィリピンにおける通信事業の成長のロードマップ



次の構想「フィリピン通信の開国」

国際海底ケーブルを建設

⇒OTTやフィリピン外の大手通信事業者と協業し、国内の**コンテンツデリバリネットワーク (CDN)** などを提供



2022年～

2022～2023年フィリピン国内海底ケーブルを建設、**全国140か所の中継局 (地域局)** が完成予定

⇒中堅通信事業者や地域CATV向けに提供



2020年～

国際通信回線 (C2C等) のIRU取得

⇒通信事業者向けに提供

(キャリアズキャリア取引)

個人向けインターネット接続
法人向けインターネット接続
CATV向け国際回線

①

国際回線増強 (キャリアズキャリア取引)

⇒取得済回線の容量拡大、新規回線の取得から
受注の継続・拡大へ

⇒通信事業者のパートナーとして実績拡大・信頼向上へ
5G接続サービスが本格稼働すれば更に拡大
アフターコロナ期の拡大を期す

取引先の拡大 + 容量増大や次世代サービス提供を支えて関係を深化

②

面の展開 (国内縦断の基幹回線を構築)

⇒効率的な自社回線ストックが主要地域を縦貫し、
益々増大するトラフィックを広域に運ぶインフラへ

③

国内基幹回線を最適化

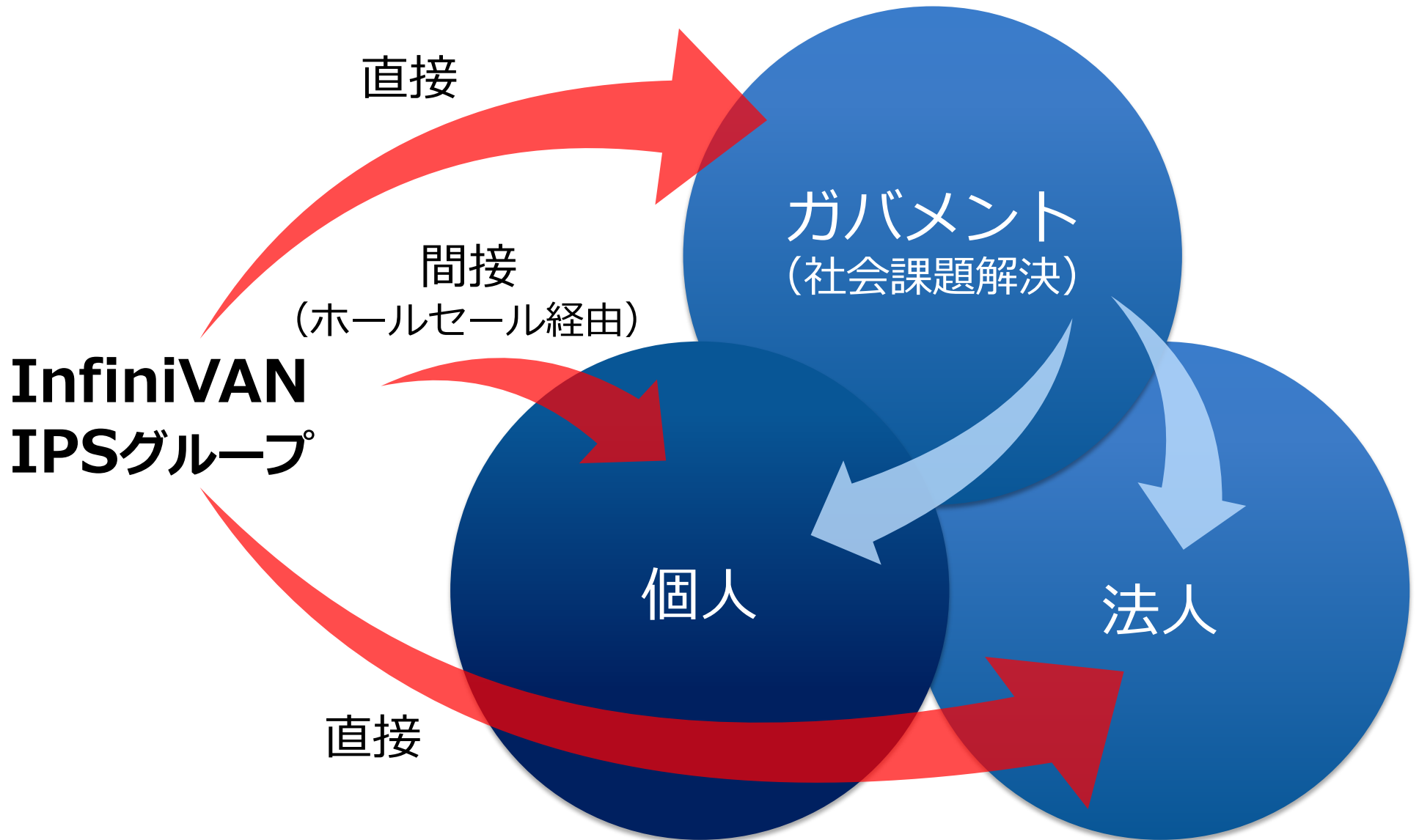
⇒日系企業で、通信自由化の経験則があり、
フィリピン国内免許と回線・設備を持つ、
当社ならではのサービスを提供

Y1
(現在)

※グラフはイメージ図

※将来の記載については、実施を約束するものではありません

(2) 国際通信事業の対象マーケット、アプローチ



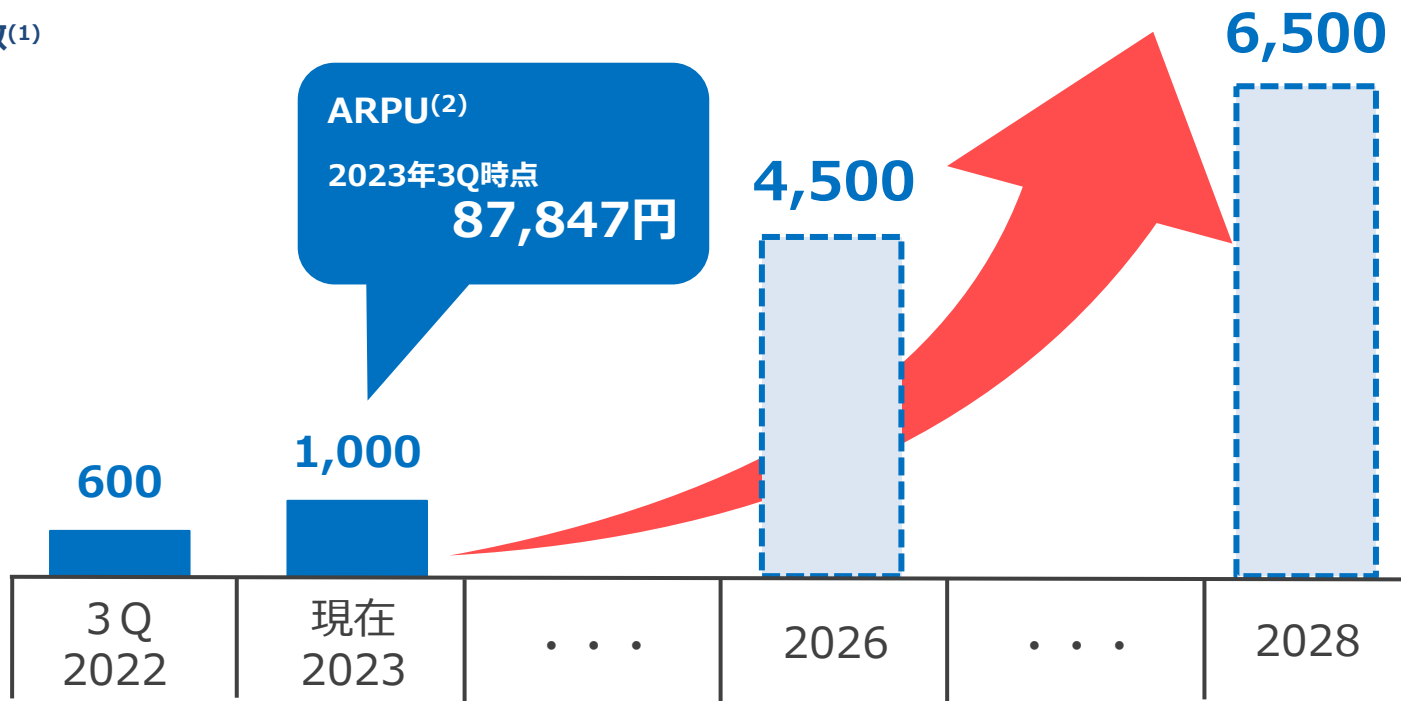
(3)インターネット顧客の獲得に専念



法人

- **5年後の顧客数を、6,500に拡大。**
- コロナ明けによる需要回復を機に、地道な自力敷設やRadius回線のスワップによるアクセス回線の拡充、PDSCNその他全国ネットワークの整備、主要地方都市も含めた販売・保守体制の拡充によって、これを実現する。

顧客数⁽¹⁾



(1) 数字は月間の顧客数（課金顧客数）の四半期平均
(2) ARPU (Average Revenue Per User) は、顧客当たりの平均売上高

(4)新たなアジア国際海底ケーブルの建設（検討中）

ホールセール+α



- 陸揚局を設置※メイン局ではない
- バックホールを整備（一部は自力敷設）
- 国内の主要インフラと接続。日本の通信インフラ改善、データハブ化に貢献

- PDSCN、BBIXフィリピンと接続
- 国内第3位のインターネットデータを取り扱う、更に大規模、高品質なインターネットインフラに

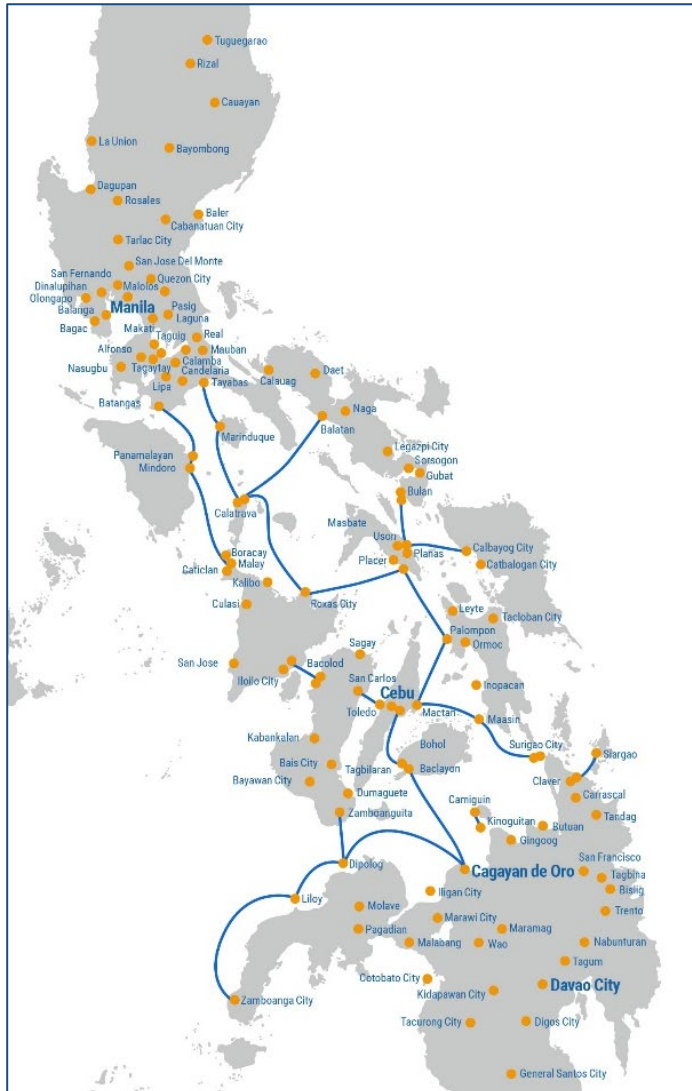
- 日本～フィリピン～シンガポールを結ぶ、新たな国際海底ケーブルシステムの共同建設を協議中。
- 完成後は、当社の全領域の通信顧客へ恩恵が波及（CATV、ISP、通信事業者、OTT、政府機関、そして法人と個人）

(5) フィリピン国内コアネットワークの積極整備



社会課題解決+α

ホールセール+α



- PDSCNと接続する国内陸上光ケーブル網と地域局140カ所以上の整備。
- 政府プロジェクト関連と位置づけ迅速な敷設許認可を受け、大手通信事業者に先行して、ネットワークを拡大。
- **国（情報通信技術省DICT）が推進する National Broadband Planの実現に貢献し、Underserved, Unservedと位置付けられる方々にもブロードバンドを提供。**
- **今般整備する通信インフラの恩恵は、ホールセールをはじめ当社の全領域の通信顧客へ波及。**



当社だからいち早く提供できる
社会課題解決のソリューションを、
日本や世界中からを発掘し、
フィリピンの顧客向けにカスタマイズし、
提供

紙による政府文書管理（従来）

- フィリピンの各地方政府はこれまで出生証明や住民票のデータを全て紙で管理
- 非効率な保管、低い検索性、低いサービスレベル

デジタルアーカイブ管理（実証実験中）

- 場所を問わず、速やかに、出生証明や住民票の検索が可能に
- 保管場所が削減
- 政府サービスの電子化の土台

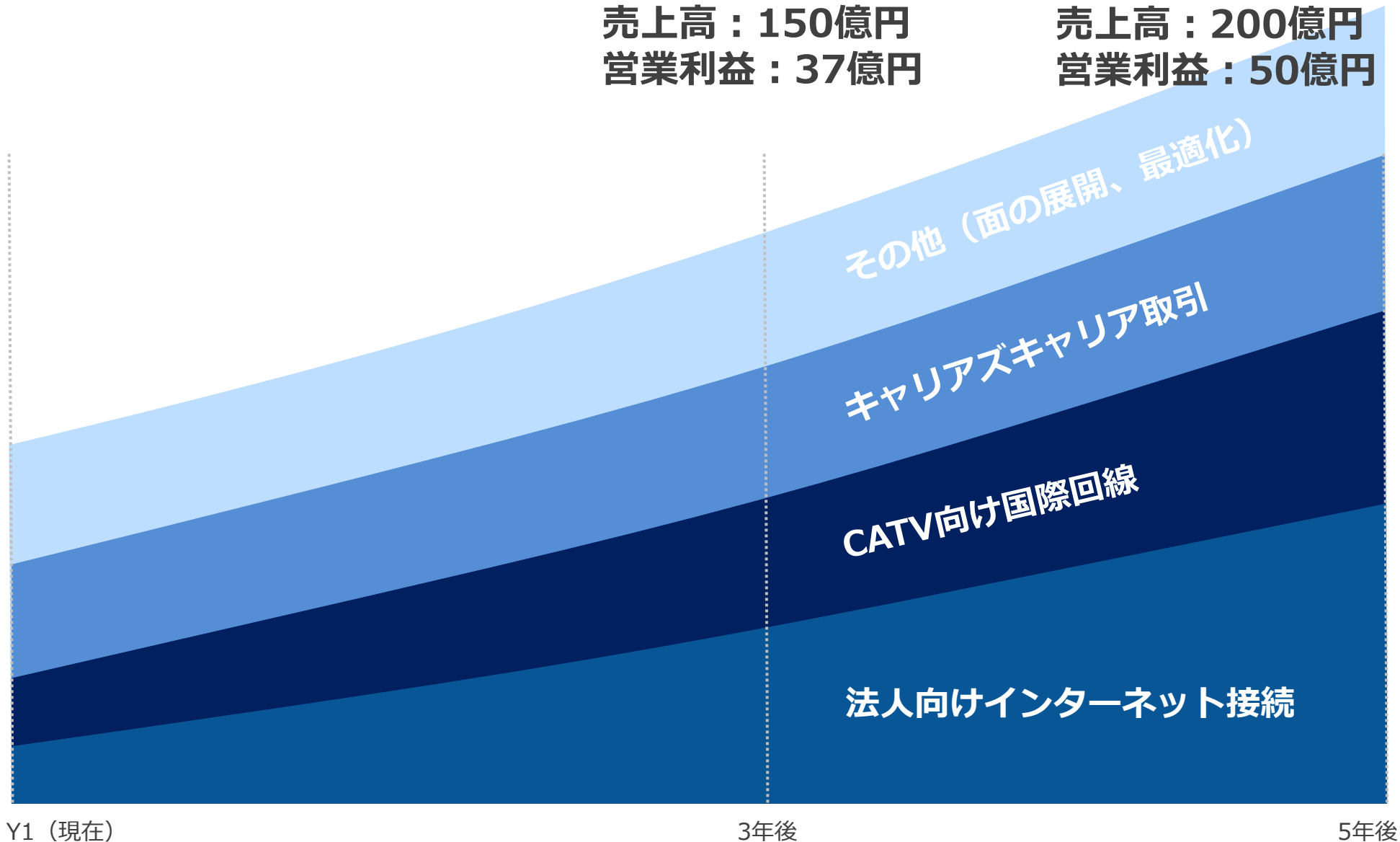
米国製のデジタルアーカイブ管理パッケージを発掘。更に、海外の安全なデータセンターへのバックアップの設置（当社国際回線を経由したデータ伝送）をセットで提供。

(7) 国際通信事業の成長イメージ



売上高：150億円
営業利益：37億円

売上高：200億円
営業利益：50億円



- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1

東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331